

「日々の理科」(第1524号) 2018 (H30), -9, 10

「シラカバの伐採」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今年の日本列島は、実に台風の当たり年だった。温かい海水がエネルギー源である台風は、上陸すると途端に勢力を失う。しかし今年の台風は上陸しても勢力を失わず、日本海や北海道方面にまで進んで、本州の内陸部にも被害を及ぼした。



私の山荘がある北軽井沢（群馬県長野原町）のは、どの海からも150km以上離れているが、台風の被害を受けた。主として樹木の倒壊である。私の山荘の庭のシラカバも、倒壊が2本、倒壊寸前が数本と、やはり被害があった。もともと白樺は脆い材で、建築には使えない雑木である。樹液が屋根を汚すこともあって、あまり人気がない。しかし高原らしい雰囲気なので、今まで伐採せずにいた。



しかし、この夏の台風で数本が大きく傾き、屋根に

倒れそうになったばかりか、浅間山を観測しているカメラの視野まで邪魔に入ってきた。私は思い切って、庭のシラカバをすべて伐採してもらうことにした。



伐採は地元のプロに頼んだ。私は安全の為に東京に待機していたのだが、遠隔カメラで伐採の様子を見ることができた。まず、見通しを確認し、倒す方向と逆の根元30cmあたりを切る。全部切らずに、ワイヤーを結んで、倒したい方向に牽引するのだ。見事だった。建物や車庫にはまったく傷をつけず、あっという間に7本のシラカバの伐採が終わった。さすがプロである。